

高山から機械のグローバルニッチトップへ

～どこにもない高精度な機械を“日本のスイス”で作りたい～



株式会社 和井田製作所

代表取締役会長兼社長

和井田 光生氏

- 住 所：高山市片野町2121
- T E L：0577-32-0390
- F A X：0577-37-0020
- U R L：<http://www.waido.co.jp/>
- 事業内容：各種工作機械、産業機械および測定機器の製造ならびに販売
計測および制御機器の製造ならびに販売
金型部品、機械部品および各種一般部品の加工ならびに販売
- 従業員数：165名(連結) 133名(単体)

■ 創業は東京・蒲田 「世の中になかった機械を作りたい」

聞き手：御社の歴史についてお聞かせください。

和井田社長：私の父が東京は蒲田で昭和8年(1933年)に創業したのが始まりです。母親が古川の出身ということや、高山市長から誘致があったこともあり、昭和16年に高山工場が作られました。その後国策で和井田製作所の名前は一度なくなったのですが、昭和21年10月に高山で株式会社和井田製作所を設立しました。ちょうど70周年となります。

もとは自動車のエンジン、そしてエンジンを修理するための機械を作っていました。エンジンは内部で爆発を起こして力を得るものなので、非常に硬い材質で作られています。そのためシリンダーボーリングマシンにはドイツから輸入した超硬合金の刃物を使っていました。その刃物も高価なため、ダイヤを固めた砥石で何度も再研磨して使うのですが、その技術が今の事業につながっています。

聞き手：現在では飛騨地区で唯一の上場企業となられていますね。

和井田社長：父には非常に精密な機械を作りたいという思いがありましたので、スイスのような環境であることも高山を選んだ理由だと思います。

自動車の整備機械の製造がひと段落したのは昭和30年代で、それまで積み重ねてきたコア技術を使いながら高精度な工作機械を作り始めました。世の中になかった機械を作りたいという父の思いのもとで、他にはな

い、特殊業界向けに特化した機械を作ろう、ニッチトップを目指そうと頑張ってきました。

切削工具については、工具そのものではなく工具を作る機械を作り始めました。そしてスマートフォンなど電子部品に使われることの多い精密金型を作るための機械、この2つの分野が売上の90%を占めています。10%は半導体関連、LEDランプなどの心臓部となるICチップを研削する機械などです。

以前は日本国内での売上が70%ほどを占めていましたが、リーマンショック後は海外の比率が60%くらいになり、現在の中期計画ではグローバルニッチトップになろうということを掲げています。

聞き手：代理店を使わず、直販にこだわってらっしゃると聞きました。

和井田社長：切削工具業界は、世界でも何十社程度で数え切れるほどです。お互いの機密事項もありますから、商社を通じるメリットがありません。それよりも、業界のリーダー的な企業であるお客様と直接対話し、深い関係を続けていくことで、需要を引き出せるという効率の良さもあります。一方で、精密金型分野については中国・アジアへの輸出が多いので、適宜代理店を使っています。そんな状況で、営業も少数精鋭となっています。

高山にあるメリットもありますが、もちろん情報のスピードや輸送費などの面でデメリットもあります。それを凌駕できるよう、少数名で最大の利益を上げること、賢く生き残っていくこと、そして世の中から求められる機械作りをしていくことを常に考えています。